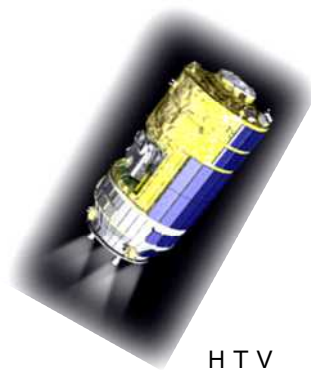


これは どえりゃ～こった！！

日本人が狂喜乱舞したくなる大ニュースが相次いで二つもありました。一つは国産ロケット「H2B」で16トンもある無人補給機を打ち上げ、350キロ先の国際宇宙ステーションにドッキングさせた。もう一つは大リーガー「イチロー」が前人未到の9年連続200安打の大記録を打ち立てた。どちらも世界に誇れる特大のニュースだ。



平成 21 年 9 月 11 日午前 2 時 01 分、国産大型ロケットにより補給機「HTV」を打ち上げ、国際宇宙ステーション「ISS」へのドッキングに成功した。

打ち上げられた HTV は、秒速 8 キロ（時速 28,800 キロ）のスピードのステーションと同じ速度を保ち、接近飛行を行い、ステーションからのアームに確保されドッキングを完了させた。これらの制御は茨城県筑波宇宙センター管制室、米航空宇宙局（NASA）、ステーション内飛行士の高度な連携が必要であるが、接近飛行の一番の難しいシステムは日本独自が開発したものである。

秒速 8 キロ同士の接続は、わずかなミスが衝突事故につながる最大の難関だけに、これらを完璧にやり遂げた日本の技術はすごい。日本の関係者の喜びもひとしお、連携して作業に当たった米国 NASA 関係者も「素晴らしい」と絶賛した。

世界各国が宇宙開発には興味を持っており、月・惑星の探査、各種観測衛星などに乗り出そうとしている。これらは開発目的以外に自国の力の誇示、国威発揚、中でも一番は技術力の確保であろう。何十トンもの搭載物を運ぶロケットの開発、それらの高度な制御技術は転用の利く技術としてどうしても手に入れたいであろう。

中国の宇宙開発技術に、なんとしてでも遅れまいと頑張っているインドの熱意も納得がゆく。

しかし、莫大なお金を費やす技術習得は平和に貢献することが王道であり、国民を飢餓にさらしてまでも求めることは邪道であろうと思う。

平成 21 年 9 月 13 日（日本時間 14 日）米大リーグ、マリナーズのイチロー外野手はレンジャーズ戦のダブルヘッダー第二試合の第二打席に遊撃内野安打。最もイチローらしいヒットで、人類初の大記録、9 年連続 200 本安打を達成した。

米国 100 年の野球の歴史にも無いとんでもない記録を日本人大リーガー「イチロー」が作ってしまった。

1991 年春 名古屋は名電高校からモヤシのように細い青年がプロ野球に入団した。ドラフト 4 位というから、ほとんど無名の選手。プロ野球選手鈴木一朗、後の「イチロー」の誕生であった。入団より 3 年間は出場機会も少なく記録に残る活躍も無かった。

1994 年目に入るや、いきなり開花した。この年は日本新記録 69 試合連続出塁。日本球界初の 210 安打。パリーグ新記録打率 3.85 割達成。首位打者。最年少 MVP を獲得した。以後日本で活躍した 2000 年までの 7 年間は、連続して首位打者、ゴールドグラブ賞を獲得している。

これらの成績を残しイチローは大リーグ移籍を決意する。当時の野球ファンの大半がイチローの移籍を惜しむと同時に、大リーグでの活躍に不安を抱いた。確かに日本での実績には素晴らしいものがあるが、果たしてそれが大リーグで通用するだろうかとの不安であった。私達が知っている大リーガーというのは、腕は丸タン棒、体重 100 キロ、身長 2 メートル近い大男ばかりで、とてもそんな中で活躍が出来るなんてことは考えられなかった。

ところが 180 センチ、77 キロのイチローは移籍 1 年目から華々しい大活躍を始めた。

2001 年いきなり 3.5 割の首位打者、242 本安打で MVP、新人王、盗塁王、ゴールドグラブ、シルバースラッガー賞を得て、オールスターにも選ばれた。心配したほとんどのファンがイチロー選手に頭を下げた。

マリナーズ在籍 9 年目、連続で打率は 3 割をクリアー。

そして今回の前人未到の大記録 9 年連続 200 本安打達成の偉業をなしとげた。

毎年当たり前のようにオールスターにも選ばれ、いろいろな記録を塗り替えている。強い強い精神力とたゆまぬ鍛錬、精進の賜物と思うが、とにかく凄いといしか言い様がない。



このどえりゃ～二つの偉業をどうしても見ておきたいと、少ない機会の中で何度もテレビを点けるがその度に、あのバカタレント夫婦の薬物逮捕、保釈の番組に邪魔をされ閉口した。朝から晩までしかも何日間も、よくもまああれだけくだらん事を熱心に番組にするもんだ。視聴者がこんな番組を欲していると思ってる製作者の頭もちょっとおかしいんじゃないかな。